

支援者向けセミナー 2023

移住者とソーシャルワーク

難民の背景のある人も含む移住者（難民・移民）からの相談は
背景事情がわかりにくかったり、色々な課題が複雑に絡み合っているために
対応が難しいことが良くあります。

当事者だけでなく家族やコミュニティといった当事者を取り巻く環境について理解し、
働きかけを行っていくことも欠かせません。

ISSJ では、2020 年度より支援者向けセミナーを実施してきました。

2023 年度は、「当事者理解」をベースに
それぞれの実践現場で活かせるようなソーシャルワークとしての対人支援を学びます。



全4回開催

12/2・1/20
1/27・2/17
全て土曜日



オンライン開催 & 対面演習

各回への参加 or 通し参加
どちらでも OK
対面演習・定員 20 名



事後視聴 (録画配信) あり

演習 1 を除き
翌週火曜日 10 時から
1 週間視聴可



専門家・実務者 による講義

詳細は裏面へ

セミナーの狙い

- ソーシャルワークとしての対人支援について理解する
- ソーシャルワーク的な支援を実践に活かせるようになる
- 多様な視点を持って当事者を理解し、支援できるようになる

お申込み (Peatix)

はウェブサイトから



受講対象者

- 移住者の支援に関わっている外国人相談員や民間団体、ボランティアの方々、又は、これから支援に携わりたいと考えている人
- 職務としてソーシャルワーカー的な働きを担っている人、又は、ソーシャルワークの手法や役割に関心がある人

参加費

- 通しチケット (演習あり) : 12,000 円 (学生 10,000 円)
- 通しチケット (演習なし) : 10,000 円 (学生 8,000 円)
- 各回のチケット : 3,250 円 (学生 2,250 円) ※講義毎のチケットはありません

※学生でのお申し込みの方は、在学中の学校名を必ずご記入ください (所属部分)。

学生証等での確認を求める場合があります。

※通しチケットをお申し込みの方に限り、ISSJ ソーシャルワーカーへの個別相談 (無料) にもお申込みいただけます。

研修スケジュール

お申込み&詳細は
ウェブサイトから



第1回 12月2日(土) オンライン開催

- 講義1 13:00-14:00 ソーシャルワーク概論 - 外国人支援に向けて
講師 森 恭子 (日本女子大学教授)
- 講義2 14:10-15:10 移住女性と家族への支援
講師 南野 奈津子 (東洋大学教授)
- 対談1 15:15-16:15 当事者との対話
カディザ ベゴム
(ロヒンギャ女性コミュニティーリーダー)

第2回 1月20日(土) オンライン開催

- 講義3 13:00-14:30 難民化のプロセスとメンタルヘルス
—多文化間メンタルヘルスの視点から
講師 鵜川 晃 (大正大学教授)
- 講義4 14:45-16:15 相談援助とカウンセリング
講師 南野 奈津子 (東洋大学教授)

第3回 1月27日(土) 対面で開催 会場 都内で開催 ※決まり次第お知らせ

- 講義5 13:00-14:30 文化の多様性に関する
ソーシャルワークの実践原則 ※録画配信あり
講師 ヴィラーク ヴィクトル
(日本社会事業大学准教授)
- 演習1 14:45-16:15 移住者に対する社会の中の偏見と
それへの対応を考える
講師 ヴィラーク ヴィクトル
(日本社会事業大学准教授)

第4回 2月17日(土) オンライン開催

- 講義6 13:00-14:00 移住者コミュニティを理解する
講師 近藤 花雪
(ISSJプロジェクトコーディネーター)
- 講義7 14:10-15:10 課題の整理とアセスメント
講師 石川 美絵子 (ISSJ ソーシャルワーカー)
- 対談2 15:15-16:15 当事者との対話
決まり次第ウェブサイトでお知らせします

主催・お問い合わせ

社会福祉法人日本国際社会事業団 (ISSJ)

ISSJは、人々が国境を越えることで生じるさまざまな問題の相談に応じる民間団体です。「移住者(難民・移民)の支援」「養子縁組」「Children Across Borders」を通じて、言葉や文化の壁を越えて、人々が福祉を享受できるように支援をしています。

TEL 03-5840-5711
E-mail issj@issj.org 担当 近藤・櫻井

講師について



森 恭子

日本女子大学人間社会学部社会福祉学科教授。日本ソーシャルワーカー連盟国際委員。専門は、国際・多文化ソーシャルワーク論、コミュニティワーク論。とくに移民・難民への支援および共生社会の構築に関するソーシャルワークを研究。埼玉県で外国人の子どもの学習支援教室を運営し、生活面の支援にも携わる。近著に『いっしょに考える難民の支援』(編著、明石書店、2023年)、『国際ソーシャルワークを知る』(分担執筆、中央法規、2022)がある。

南野 奈津子

東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科教授。博士(社会福祉学)。研究テーマは児童家庭福祉、多文化ソーシャルワーク。日本社会福祉士会、日本国際社会事業団、NPO等で外国人支援業務や社会活動に従事。主な著書に『いっしょに考える外国人支援』(編著、明石書店、2020年)、『女性移住者の生活困難と多文化ソーシャルワーク』(単著、明石書店、2021年)、『地域で取り組む外国人の子育て支援』(編著、ぎょうせい、2022年)。

鵜川 晃

多文化間精神医学会 理事、現職は大正大学社会共生学部公共政策学科教授。専門は文化人類学、多文化間精神保健学であり、難民や移民の心身の健康問題や、異文化適応の課題、様々な生活様式の背景にある文化理解についての研究を行っている。最近ではベトナム人の妊娠・出産に見られる文化実践の変容、ベトナム人の性と生殖の健康と権利を守る心理教育のあり方について調査、報告を重ねている。

ヴィラーク ヴィクトル

ブダペスト出身、高校卒業後に来日。東京大学卒業、日本社会事業大学院修了(社会福祉学博士)。国際ソーシャルワーカー連盟アジア太平洋地域(IFSW-AP)会長補佐、アジア太平洋ソーシャルワーク教育連盟(APASWE)理事などを経験。現在、IFSW-AP財務担当、日本ソーシャルワーク学会理事、日本ソーシャルワーカー協会理事、日本社会福祉学会国際学術交流促進委員、日本ソーシャルワーカー連盟国際委員日本社会福祉教育学会理事。